

インドネシア共和国 Republic of Indonesia

作成日：2020年9月17日

■ インドネシアの国家開発計画

「国家長期開発計画（2005年－2025年）」が国家開発計画の基礎となり、5年ごとに中期国家開発計画が策定されています。中期国家開発計画に基づいて、各省庁や政府機関はそれぞれの戦略計画を、地方政府が地域開発戦略を作成することになっています。現在は2015年1月に採択された「国家中期開発計画（2014－2019）」が実施されています。これらに加えて、上述の長期開発計画の達成を加速化するために「インドネシア経済開発加速・拡大マスタープラン」を策定しています。これらの開発計画の立案や各省庁への予算配分は国家開発計画庁(BAPPENAS)が担当しています。

■ インドネシア経済開発加速・拡大マスタープラン 2011－2025 (MP3EI, 2011年)

- MP3EIは中期国家計画や長期国家計画を補足するワーキング文書であり、長期国家計画（2005-2025）の達成を加速化することを目的としています。ワーキング文書であることから更新・精緻化されています。
- 本計画を通して、インドネシア国は、2025年までに一人当たり所得をUSD 14,250へ、国のGDPをUSD4.0-4.5 Trillionへ増加させ世界の先進国の一員となることを目指しています。
- 開発の重点分野として、8つのプログラム（農業、鉱業、エネルギー、産業、海事、観光、通信及び戦略的地域の開発）に分類しています。また、8つのプログラムは22の主要な経済活動や戦略地域の開発（ICT、石炭、ゴム、パームオイル、スダマラ海峡戦略地域など）から構成されています。
- また、インドネシアのVision 2025（長期国家計画）及び上記目標の達成のため、次の3つの戦略を掲げています。
 - ✓ 経済回廊を通じた経済力開発
 - ✓ 国家の接続性の強化
 - ✓ 人材能力及び科学技術の強化
- MP3EIでは、上記の3つの戦略に基づいて6つの経済回廊の開発計画が作成されており、その乗数効果がインドネシアの全ての地域に行き渡るとしています。各経済回廊では、それぞれの強みに基づき、上述の主要な経済活動や戦略地域に焦点をあて、その現状分析、開発戦略の策定、規制・政策への提言、インフラ開発方針及び人材能力・科学技術の強化方針を提示しています。

■ インドネシア経済回廊（IEDC）

No.	経済回廊	重点産業	必要インフラ
①	東スマトラ・北西ジャワ	パーム油、ゴム、石炭	港湾、鉄道・道路、発電所
②	北ジャワ	食品、繊維、輸送機械	港湾、鉄道・道路、発電所
③	カリマンタン	石油・天然ガス、パーム油、石炭	河川港、鉄道、産業用道路
④	西スラウェシ	農業、漁業、ニッケル鉱業	必要インフラ：農業用水、港湾、電力
⑤	東ジャワ・バリ・東ヌサトゥンガラ	観光、食品、農業、畜産	空港、港湾、道路、発電所
⑥	パプア	鉱業、農業	灌漑、港湾、発電所、送配電

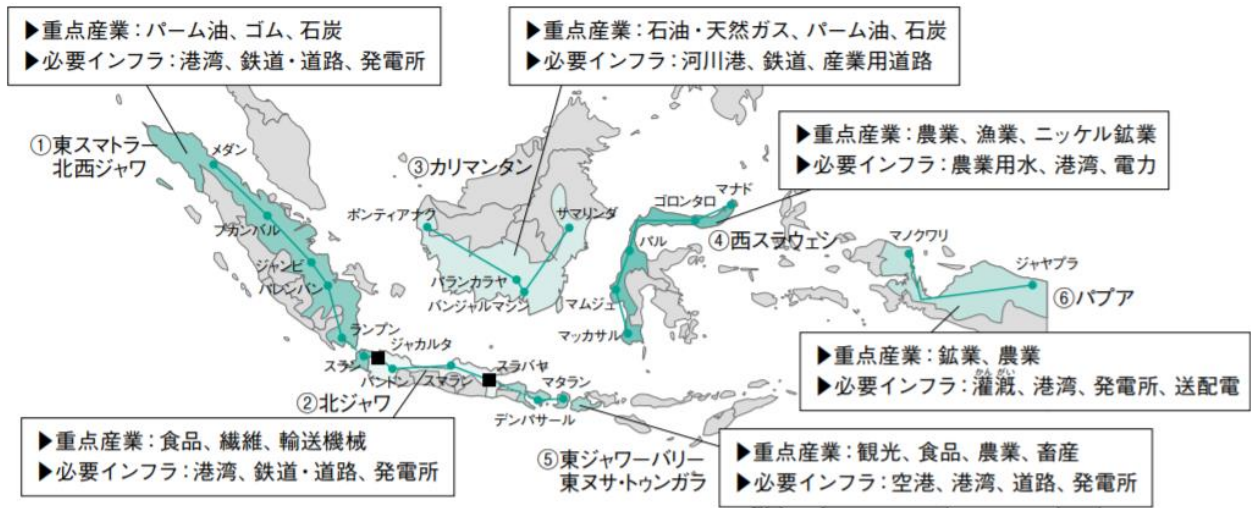


図1：IEDCの6つの経済回廊と重点分野

出典：日本貿易会 月報（2011年3月号 No.690）「インドネシアにおける経済開発とインフラ輸出」

経済産業省 貿易経済協力局資金協力課 課長 寺村英信